

日本医療科学大学保健医療学部臨床検査学科

関 貴 行*[§] 伊 藤 昭 三*

I. 本学の沿革

日本医療科学大学 (Nihon Institute of Medical Science, NIMS) は2007年(平成19年)、埼玉県入間郡毛呂山町に開学しました(写真1)。保健医療学部という単一学部に診療放射線学科とリハビリテーション学科(理学療法学専攻・作業療法学専攻)を設置してスタートしたわけですが、その前身は1984年(昭和59年)に開校した城西医療技術専門学校となります。城西医療技術専門学校は、開校当初は診療放射線学科のみの設置でしたが、1996年(平成8年)に理学療法学科、そして1999年(平成11年)には作業療法学科を開設し、そこから発展的に2007年の大学開学となりました。その後、2012年(平成24年)には看護学科および臨床工学科が開設され、2021年(令和3年)には満を持して臨床検査学科が開設されました。現在

5学科2専攻、計6コースの設置となっており、すべてのコースで国家資格取得を目指すことができる、小規模ながら医療系総合大学と称することができる教育体制を敷いています。

本学キャンパスは東武越生線「川角」駅から徒歩約10分のところにあります。周囲には畑が広がり大変のどかな雰囲気ですが、本学に隣接して城西大学、そして明海大学が並んでおり、ちょっとした文教地区が形成されています。朝の越生線車内は3大学の学生達でいつも満員であり、電車通勤の教職員もそこに埋もれながら出勤しています。

II. 教育理念

本学では建学の精神に基づき「報恩感謝」を校是としています。恩に報い、常に感謝する気持ちをもった有為な人材を育て、建学の精神を具現した多くの医療人を輩出したいと考えています。また



写真1 キャンパスの様子
左：本部棟を中心に、右：モニュメント

* 日本医療科学大学保健医療学部臨床検査学科 [§] t-seki@nims.ac.jp

教育理念を「人間性」「問題解決性」「社会性」「未来性」と定め、豊かな人間性を育む教育を実践しています。建学の精神、教育理念に加えて本学の教育姿勢を表す特徴的なものに「OPEN MEDICAL -生きる力を。」というタグラインがあります。これは「文系でも理系でも、どのような科目が得意であろうと不得意であろうと、大切なのは誰かのチカラになりたい、困っている人を助けたいという心。持てる知識と技術を駆使して、人の命を支えたいと思う医療の心。そんな医療の心さえあれば、日本医療科学大学があなたに医療の道を開きます。(後略)」というブランドステートメントであり、様々な状況の学生を広く受け入れ、それぞれの目標を叶える支援を行うという教育姿勢を表しています。

III. 本学の教育の特徴

1. チーム医療教育

本学ではチーム医療教育に力を入れており、1年次の後期には必修科目「チーム医療演習」が組み込まれています。この科目は全学科・専攻の学生が合同で取り組む演習科目で、計15週にわたって行われます。前半は主に講義形式で、自身が目指す職種だけでなく他職種の職務内容について学びます。後半は学科・専攻を混成したグループとなり、提示されたシナリオ(症例)について各職種がどのように患者やその家族と関わるべきかをグループワークで検討します。最後にはグループワークの成果を報告する発表会を行い、それぞ

れの学びや考えを共有します(写真2)。チーム医療について理解を深めると同時に、医療人としての倫理観やコミュニケーション能力を向上できる演習となっています。

2. 「医療・基礎教育科」による学習支援

本学では先に述べた6コース以外に「医療・基礎教育科」を設置しています。これは学生の基礎学力向上を図る目的で設置された学習支援専門の科であり、基礎教養・基礎医学分野を専門とする専属教員が学生対応にあたっています。本学に入学する学生は、生物や化学など専門医学を学ぶ上での基礎となる教科について十分な学習経験の無い者も多く、そのような学生について個人の理解度に合わせて学習支援を行っています。学生が希望したタイミングで質問対応する以外に、「基礎教育演習」(1年次, 通年)と称する補習プログラムを用意し、到達度を段階的に高める授業も実施しています。

IV. 臨床検査学科の特徴

臨床検査学科は2021年(令和3年)に本学最新の学科として開設され、2025年度でようやく5年目となりました。学生定員は一学年あたり80名で、専任教員は12名在職しています。全国でも16校(令和6年5月1日時点)しかない文部科学大臣指定校のひとつとして、歴史はまだ浅いですが臨床検査技師養成の責務を果たすべく日々学生教育に従事しております。

本学科の教育の特徴として「充実した実習設備」「実務・教育経験豊富な教員陣」「チーム医療教育の実践」「学外機関との連携」を挙げることができます。

1. 充実した実習設備

先に述べた通り本学科は開設5年目の新しい学科ですが、それゆえに機器を含めた実習設備は最新のものが備わっています。本学科が講義・実習で主に使用する5号棟は本学科の開設に合わせて建てられ、4室ある実習室はほぼ本学科専用のもとなっています。実習機器では、顕微鏡が1人1台で一齐に使用できる数が揃っており(写真3)、また検体採取や生理学的検査の実習で利



写真2 「チーム医療演習」発表会の様子



写真3 臨床検査学科が主に使用する「5号棟」と実習設備
 左上：5号棟外観，右上：生理機能検査実習室，左下：学生が使用する双眼顕微鏡

用できる模型やシミュレータも数多く備えています。

2. 実務・教育経験豊富な教員陣

学科の開設に際し12名の教員が集まりました。多くの教員が他の養成校において10年以上の教育歴を有する熟練者であり、これまでの経験を存分に発揮して初年次教育、臨地実習支援、そして国家試験対策に取り組んでいます。また臨床現場での実務経験が豊富な教員も多く、臨床検査技師のロールモデルとして学生の指導に当たることができています。

3. チーム医療教育の実践

本学科では3年次前期の実習科目として「画像検査学実習」があります。これはMRI検査を含めた画像診断検査に特化した実習であり、本学診療放射線学科が所有するMRI装置を利用して実習を行う機会もあります。診療放射線学科の教員が実習指導に当たる場面もあり、学生は他職種の視点でも画像検査を学ぶことができます。

また本学科教員には臨床工学技士免許を有する者がおります。主に医用工学・情報科学系の講義や実習を担当しておりますが、教員が他職種連携を実践していることが学生達にチーム医療に対する理解を生むきっかけとなっています。

4. 学外機関との連携

本学は純粋な医療系大学ではありますが、残念ながら付設の医療機関を有していません。しかし臨床現場や専門機関との連携が何より重要であると考え、学外機関との連携を行っています。1年次後期には「解剖学実習」の一部として、東京科学大学(東京都文京区湯島)の臨床解剖学分野にご協力いただき、解剖見学実習を実施していただいています。また2年次後期には埼玉医科大学総合医療センター(埼玉県川越市鴨田)の中央検査部にて見学実習をさせていただいています。さらに1年次前期に開講される「基礎ゼミ」においては、埼玉県臨床検査技師会会長や大学病院・総合病院の技師長にお越しいただき、臨床検査技師の責務や将来について講演いただく機会を設けています。すべての機会が学生にとって良い刺激となり、学内での学びに前向きに取り組むモチベーションの向上につながっています。

V. 最後 に

本学科では2024年3月に初めての卒業生(1期生)を輩出しました。つまり2024年2月には初めての国家試験があり、そして就職活動(支援)も学科として初めての経験となりました。就職活動は

比較的順調に進んだと感じており、国家試験についても最終的には概ね目標とするラインに到達することができました。しかしながら、医師のタスクシフト/シェアの推進やAIの進歩、社会情勢の変化などから臨床検査技師の働き方、そして臨床検査技師教育の在り方は大きく変化してきてい

ると感じます。この時代の大きな変化の中において、より一層力強く学生を支え、励まして臨床検査の世界に送り出していかなければいけないと、改めて責任を強くする次第です。教員一同、これからより一層自己研鑽に励み、より良い教育を提供していきたいと思えます。